

A . 主な動き

1 . 内政

▼各政党の動き

・1日、ヴォローニン共産党党首は、メーデーに際する同党集会において、議会における繰り上げ総選挙実施を要求する旨発言。一方、3日、フィラト首相(自由民主党党首)は、議会ボイコットを中止するよう共産党に呼びかけ。

・3日、ギンブ自由党党首は、与党連合「欧州統合のための同盟」(A E I)結成の際の合意文書に基づき、プラホドニウク議会第一副議長(民主党副党首)のポストを自由党に譲るよう民主党に要求する旨発言。これに対し、ルブ議会議長(民主党党首)は、民主党は同要求に関する検討を行う用意がある旨発言。

・3日、ドドン議員(社会党党首)及びゴーチャ議員(元自由民主党第一副党首)は、国内の治安の悪化傾向を理由とした内相交替を要求。これに対し、ロイブ内相(自由民主党)は、辞任する用意はあるが、最終的にはA E Iの判断に従う旨発言。

▼世論調査

[IMAS]

・次の日曜日に議会選挙が実施された場合の政党支持率(投票意思の無い者を除く)

共産党:43.5%、自由民主党:23.6%、民主党:18.1%、自由党:10.8% 等

・次の日曜日にモルドバのEU加盟の是非を問う国民投票が実施された場合の回答

賛成:56%、反対:20%

・調査は4月10日から24日にかけて1,390名の成人を対象

に実施。

2 . 経済

▼IMF

・4日、ミルゾエフIMF駐モルドバ支部長は、IMFミッション調査団がクレジット及び基金の拡張プログラムの合意の下、第5回目のレビューを行うため、3日よりキシナウに訪問している旨報告。そのミッションは近年の経済発展の状況を調査し、マクロ経済指標のアップデート及び評価を行うことである旨併せて報告。

3 . 外政

▼ティモフティ大統領のルーマニア訪問

・3日、ティモフティ大統領は、ルーマニアを公式訪問しバセスク大統領と会談した。会談の中でバセスク大統領は、将来のルーマニア政府の形態が如何様であれ、両国関係は戦略的なものであることに変わりはない旨発言。両者は、モルドバの欧州統合に向けた動き、ヤシ・ウング二間パイプライン建設問題及びヤシ・キシナウ間道路の近代化等に関し協議。ティモフティ大統領は、ロシア軍はモルドバ領域から撤退するであろう旨述べたが、時期には言及せず。

4 . 沿ドニエストル

・30日、アシュトンEU外務・安全保障政策上級代表は、先週沿ドニエストル地域を通過する貨物列車運行が再開されたことを歓迎する声明を发出。同上級代表は同声明の中で、兩岸の通信回線の再開等の更なる信頼醸成に向けた動きを期待する旨表明。

本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。

(了)